



株式会社 オプトラ

～ 半導体光学融合で未来を拓く ～

2023年12月期決算説明資料

2024年2月13日

光学薄膜装置



半導体光学融合装置



電子デバイス装置



□ 将来の見通しについて

本資料には、「将来の見通しに関する記述」が含まれています。この記述には、当社の事業と市場における予想される成長と傾向、業界の見通しと需要要因、当社の投資と成長戦略、新製品と新技術の開発、現在および今後の事業見通しに関するものが含まれます。今後、さまざまな外部要因・内部要因の変化により、予想・計画見通しと大きく異なる可能性があります。更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

□ 為替リスクについて

当社の主力製品である製造装置の輸出売上高は、米ドル建ての依存度が高いことから、米ドルの為替変動の影響を受けます。製造原価は中華圏生産の依存度が高いことから、中国元の変動影響を受けます。業績見通しの為替前提は、過去の実績を踏まえて想定し、為替変動影響の軽減を目指しています。当社の輸出先は中華圏の依存度が高いものの、最終需要先は米国圏の依存度が高い特徴があります。

□ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針として、中期経営計画の経営目標において「営業利益率」、「ROE」を定めています。株主価値の向上にむけて、安定配当と機動的・戦略的な自己株式取得を行う想定にしております。ただ、持続的な成長を見据え、積極的な研究開発、設備投資、M&Aなど含む戦略的事業提携を計画しています。問い合わせ先は、E-mail:ir-info@optorun.co.jp

□ 23年12月期連結受注高及び業績実績

受注高はスマートフォン(以下スマホ)関連投資の減退により、前年比44%減の240億円と減速。受注減ですが、AIスマホ向け光学薄膜装置の受注獲得が始まっています。売上高はALD(Atomic Layer Deposition:原子層堆積)装置の貢献により、同7%増の368億円、営業利益は同31%増の97億円と拡大。経常利益は為替関連差損40億円の影響で同30%減の60億円。為替実績は140.67円/ドル、19.82円/人民元。

□ 24年12月期連結受注高及び業績予想と事業環境

受注高はAIスマホ関連投資の拡大で四半期ベースの回復が期待されます。売上高は電子デバイス事業の奏効により、前年比1%増の370億円を予想。営業利益は円高や価格競争激化を踏まえて、同23%減の76億円に減少するも、経常利益は同25%増の76億円と増益を予想。為替前提は130円/ドル、20.5円/人民元。営業利益感応度は1円/ドルの円高で△1.5億円、0.1円/人民元の円高で+1億円の影響が試算されます。

□ 中期経営計画と次期事業戦略

当社は経営目標として、営業利益率20%超、ROE(自己資本利益率)10%超を想定しています。株主価値の向上に向けて、連結配当性向30%以上を前提とする安定配当と機動的・戦略的な自己株式取得を想定しております。24/12期年間1株当たり配当金は52円(中間配当金26円)を計画。次期事業戦略において、事業領域展開に示すとおり、光学に加えて半導体光学融合や電子デバイスを事業成長の柱にする方針です。

光学

半導体光学融合

電子デバイス

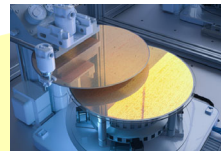


■ AI スマートフォン

- CMOSイメージセンサ
- ペリスコープレンズ

■ EV/コネクテッドカー

- ADAS(先進運転支援システム)
- 統合コックピット/モビリティ



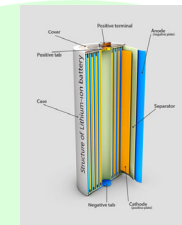
■ 光電融合デバイス

- データコムトランシーバ
- ボード接続用デバイス

生成AI革命

■ 空間コンピュータ

- Micro LED/LiDARセンサ
- OLEDディスプレイ

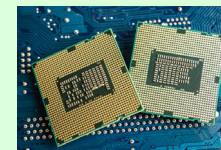


■ グリーンエネルギー

- パワー半導体
- 全固体電池

■ 通信デバイス

- ミリ波デバイス
(BAW/SAW/RF)



受注高及び業績



図表1:受注高、業績及び1株当たり指標・財務指標(単位:百万円、円、%)

| 項目 | 決算期 | 18/12 | 19/12 | 20/12 | 21/12 | 22/12 | 23/12 | 24/12E | 前年比% | |
|------------|-----|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|-------|--------|
| | | | | | | | | | 23/12 | 24/12E |
| 受注高 | | 39,821 | 36,062 | 28,606 | 35,435 | 43,124 | 24,080 | - | -44.2 | - |
| 受注残高 | | 39,228 | 32,468 | 23,583 | 28,126 | 36,947 | 24,219 | - | -34.4 | - |
| 売上高 | | 44,763 | 42,822 | 37,491 | 30,892 | 34,304 | 36,807 | 37,000 | 7.3 | 0.5 |
| 営業利益 | | 10,690 | 10,879 | 8,628 | 7,025 | 7,449 | 9,752 | 7,500 | 30.9 | -23.1 |
| 経常利益 | | 10,993 | 11,031 | 8,610 | 7,901 | 8,763 | 6,051 | 7,600 | -30.9 | 25.6 |
| 当期純利益 | | 7,746 | 9,102 | 6,797 | 6,330 | 6,890 | 4,632 | 5,400 | -32.8 | 16.6 |
| 1株当たり当期純利益 | | 187.6 | 216.7 | 159.1 | 146.8 | 159.0 | 106.1 | 123.2 | -33.2 | 16.1 |
| 1株当たり配当金 | | 55.0 | 60.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 52.0 | 0.0 | 4.0 |
| 1株当たり純資産 | | 676.2 | 821.1 | 919.0 | 1,066.0 | 1,199.1 | 1,285.3 | - | 7.2 | - |
| 売上高総利益率 | | 39.0 | 41.3 | 39.2 | 43.3 | 43.6 | 50.1 | - | 6.6 | - |
| 売上高営業利益率 | | 23.9 | 25.4 | 23.0 | 22.7 | 21.7 | 26.5 | 20.3 | 4.8 | -6.2 |
| 自己資本利益率 | | 30.6 | 29.0 | 18.3 | 14.8 | 14.0 | 8.5 | - | -5.5 | - |

注:会計は日本基準、Eは当社予想、数値は百万円以下を四捨五入で算出、利益率の前年比%欄は前年比増減

23/12期の当社予想(23年2月13日時点)は355億円、営業利益86億円、経常利益86億円、当期純利益62億円、1株当たり当期純利益142.6円

貸借対照表及びキャッシュ・フロー計算書



図表2: 主な貸借対照表及びキャッシュ・フロー計算書の概要(単位:百万円)

| 項目 | 18/12 | 19/12 | 20/12 | 21/12 | 22/12 | 23/12 |
|--------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 現金・預金 | 15,741 | 26,970 | 22,723 | 32,274 | 34,923 | 33,054 |
| 受取手形・売掛金 | 6,417 | 3,902 | 9,426 | 5,627 | 7,423 | 4,882 |
| 棚卸資産 | 24,487 | 15,173 | 11,147 | 12,855 | 20,430 | 17,989 |
| 流動資産 | 48,142 | 47,194 | 44,572 | 53,145 | 65,401 | 57,632 |
| 固定資産 | 7,502 | 9,315 | 9,755 | 11,529 | 17,515 | 20,859 |
| 総資産 | 55,644 | 56,509 | 54,327 | 64,675 | 82,916 | 78,491 |
| 支払手形・買掛金 | 1,653 | 2,735 | 1,703 | 3,246 | 4,785 | 1,284 |
| 短期有利子負債 | 757 | 510 | 489 | 472 | 414 | 403 |
| 契約負債 | 20,109 | 13,989 | 8,922 | 9,831 | 19,060 | 14,743 |
| 流動負債 | 25,923 | 19,826 | 13,655 | 17,057 | 28,400 | 19,097 |
| 固定負債 | 1,659 | 1,864 | 1,157 | 1,535 | 2,357 | 2,478 |
| 純資産 | 28,063 | 34,819 | 39,515 | 46,084 | 52,159 | 56,916 |
| 営業キャッシュ・フロー | 9,572 | 16,233 | -535 | 10,686 | 8,561 | 3,180 |
| 投資キャッシュ・フロー | -2,964 | -2,432 | -1,048 | 376 | -4,396 | -3,599 |
| フリーキャッシュ・フロー | 6,608 | 13,801 | -1,583 | 11,061 | 4,165 | -419 |
| 財務キャッシュ・フロー | -10,054 | -2,359 | -2,467 | -2,735 | -2,172 | -2,207 |

注: 数値は百万円以下を四捨五入で算出、受取手形・売掛金は貸倒引当金を考慮、短期有利子負債は短期借入金とリース債務の合計

□ 23年12月期連結受注高及び業績実績

受注高はスマートフォン(以下スマホ)関連投資の減退により減速しましたが、AIスマホ向け光学薄膜装置の受注獲得が始まっています。売上高はALD(Atomic Layer Deposition:原子層堆積)装置の貢献により増収となり、営業利益は収益性の高いALD装置の寄与で増益率が高まりました。経常利益は為替関連差損の影響で減益を余儀なくされました。為替実績は140.67円/ドル、19.82円/人民元。

スマホ市場は需要の成熟化により代替サイクルが長期化しましたが、23年12月期4Q(10~12月)頃から、AIスマホの登場・販売好調により、顧客からの新型装置の引き合いが高まっています。半導体光学領域におけるAR/VRエッチング装置や、電子デバイス領域におけるグリーンエネルギー分野向け装置などの受注を獲得しました。売上高では新規装置比率がALD装置などの寄与により44%(22年12月期35%)に高まっています。

□ 24年12月期連結受注高及び業績予想と事業環境

受注高はAIスマホ関連投資の拡大により四半期ベースの回復が期待されます。売上高は電子デバイス事業の奏効による小幅増収を予想。営業利益は円高や価格競争激化を踏まえて減益を予想しますが、経常利益は増益を想定しています。為替前提は130円/ドル、20.5円/人民元と現行レートより慎重に判断しています。営業利益感応度は1円/ドルの円高で△1.5億円、0.1円/人民元の円高で+1億円の影響です。

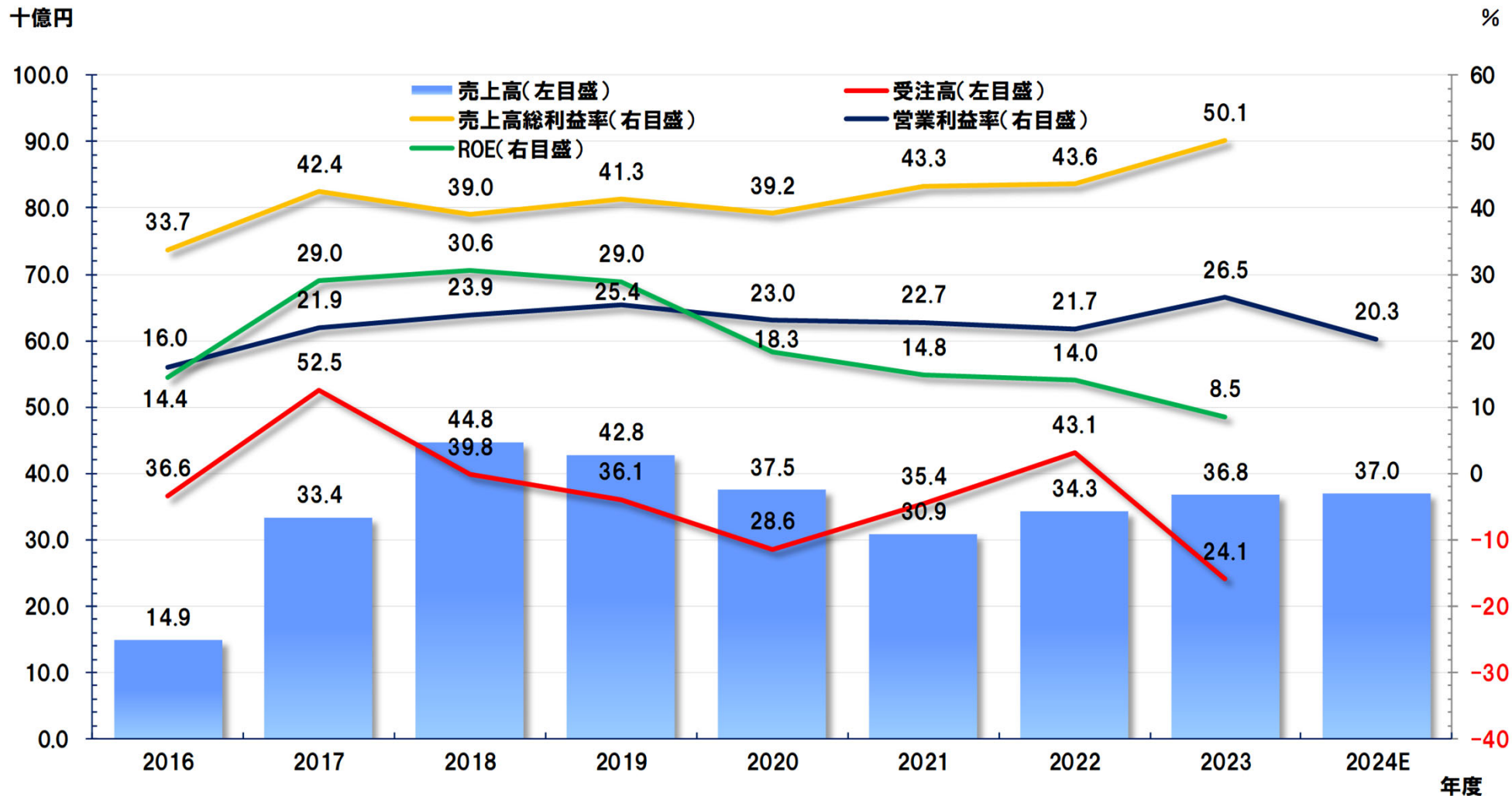
生成AI革命により、光学、半導体光学融合、電子デバイスの全事業を通じて、成膜需要拡大が期待されます。スマホ上位機種での生成AI機能搭載、カメラの複眼化・大判化による高機能化は、新規装置の需要を喚起すると予想。半導体光学融合事業は、重要注力分野と位置付け、積極的な研究開発およびIP投資やM&Aなどを行う計画です。EV/車載分野は、自動運転技術向上に伴う新たな装置需要を想定しています。

受注高、売上高及び収益性・収益力指標



図表3: 受注高、売上高及び収益性・収益力指標

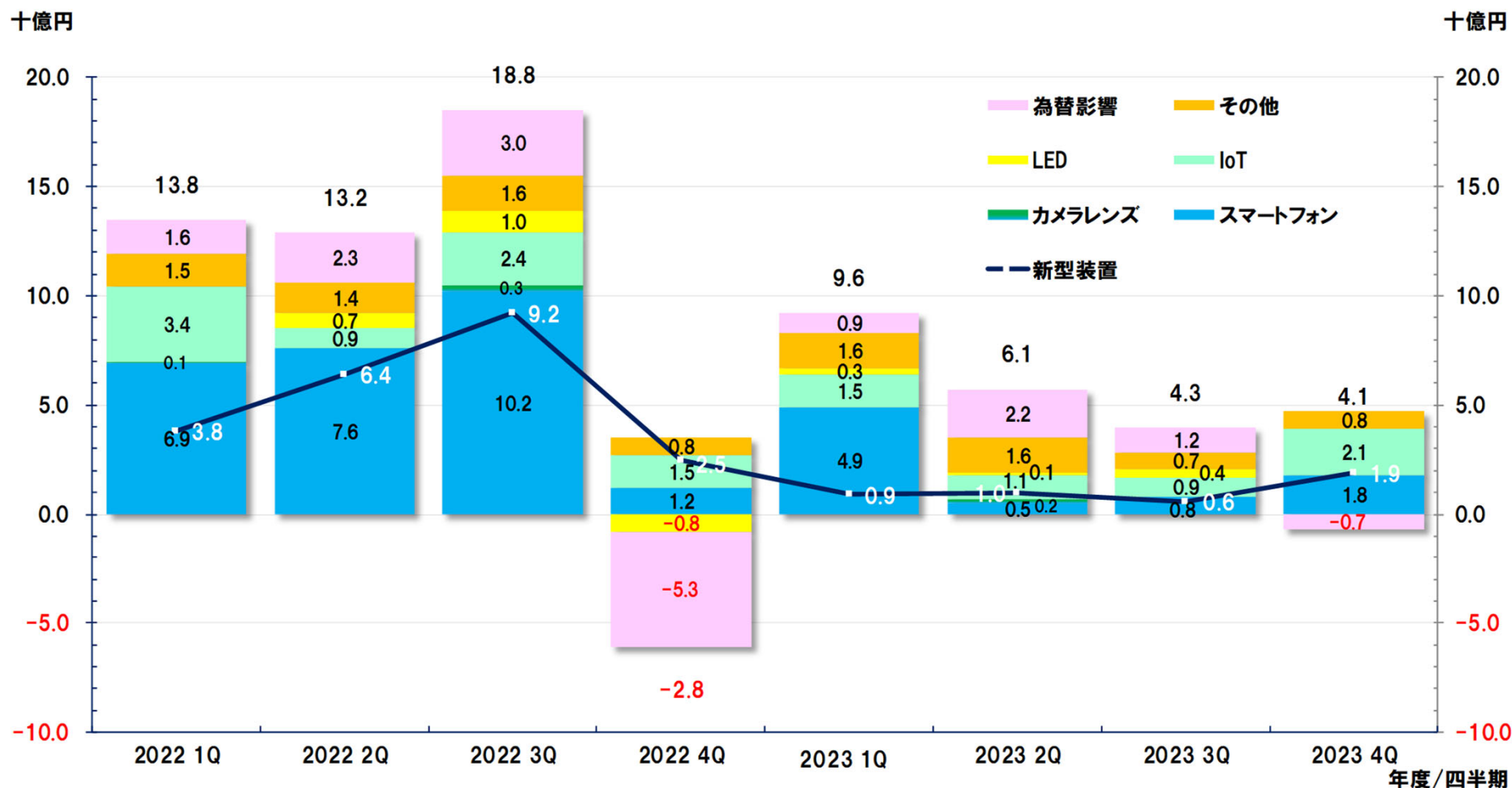
十億円



注: 24/12期の為替前提は130円/ドル、20.5円/人民元。営業利益感応度は1円/ドルで円高で△1.5億円、0.1円/人民元の円高で+1億円の影響

需要分野別の四半期受注高

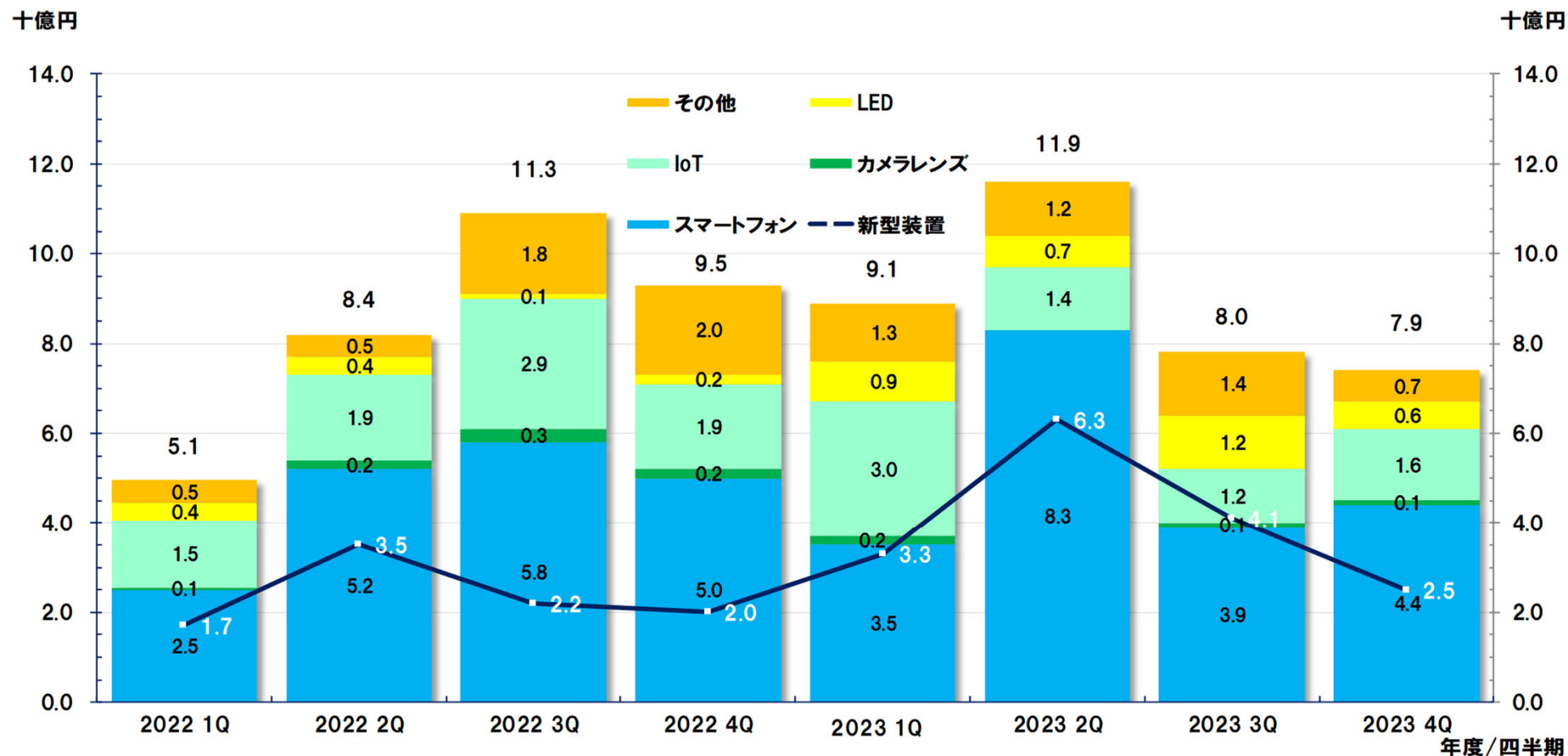
図表4: 需要分野別の四半期受注高



注: スマートフォンはカラー加飾膜、反射防止膜など、カメラレンズは反射防止膜など、IoTはDWDM(高密度波長分割多重)、生体認証、車載カメラの反射防止膜、AR/VRのIRカットフィルタなど、LEDはITO膜など。新型装置はALD装置を含む

需要分野別の四半期売上高

図表5: 需要分野別の四半期売上高



注: スマートフォンはカラー加飾膜、反射防止膜など、カメラレンズは反射防止膜など、IoTはDWDM(高密度波長分割多重)、生体認証、車載カメラの反射防止膜、AR/VRのIRカットフィルタなど、LEDはITO膜など。新型装置はALD装置を含む

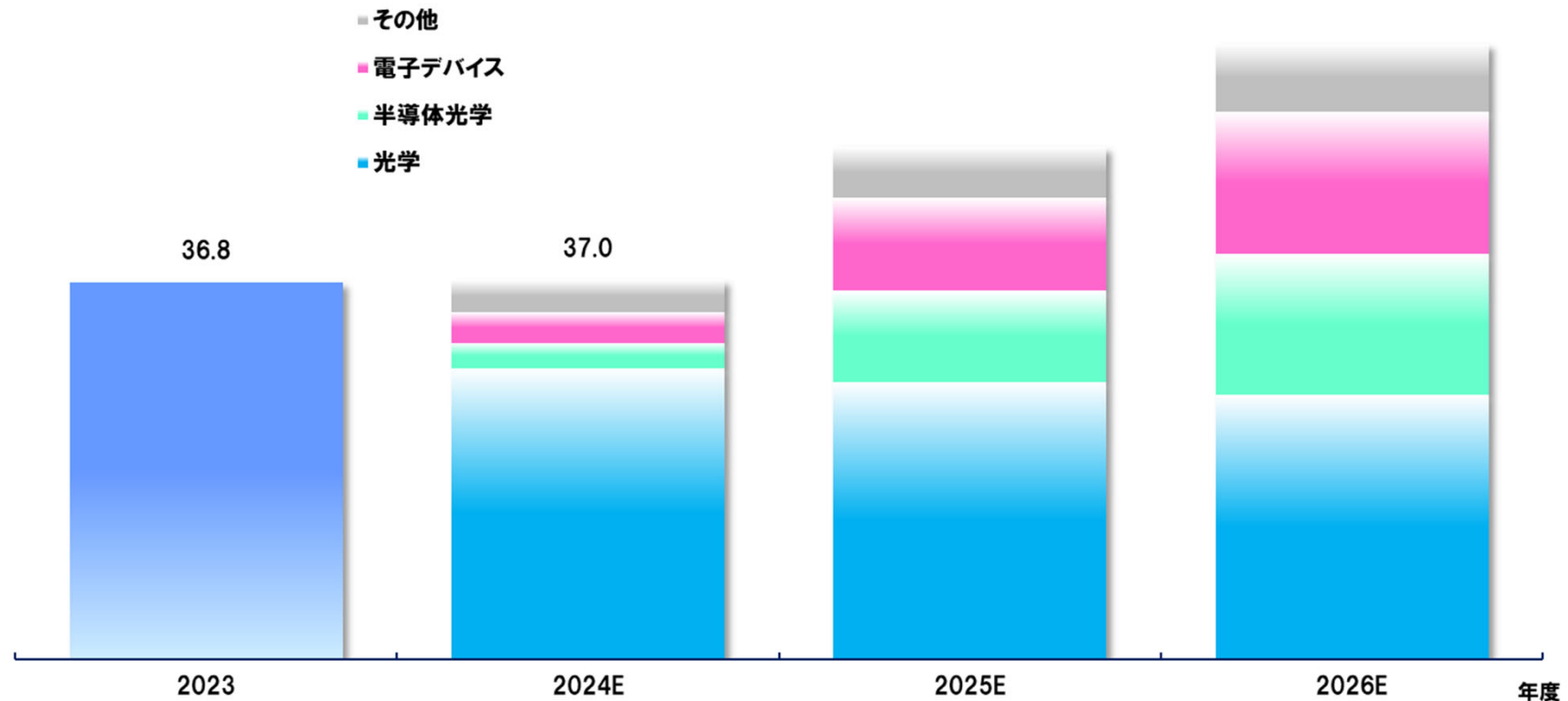


中期經營方針

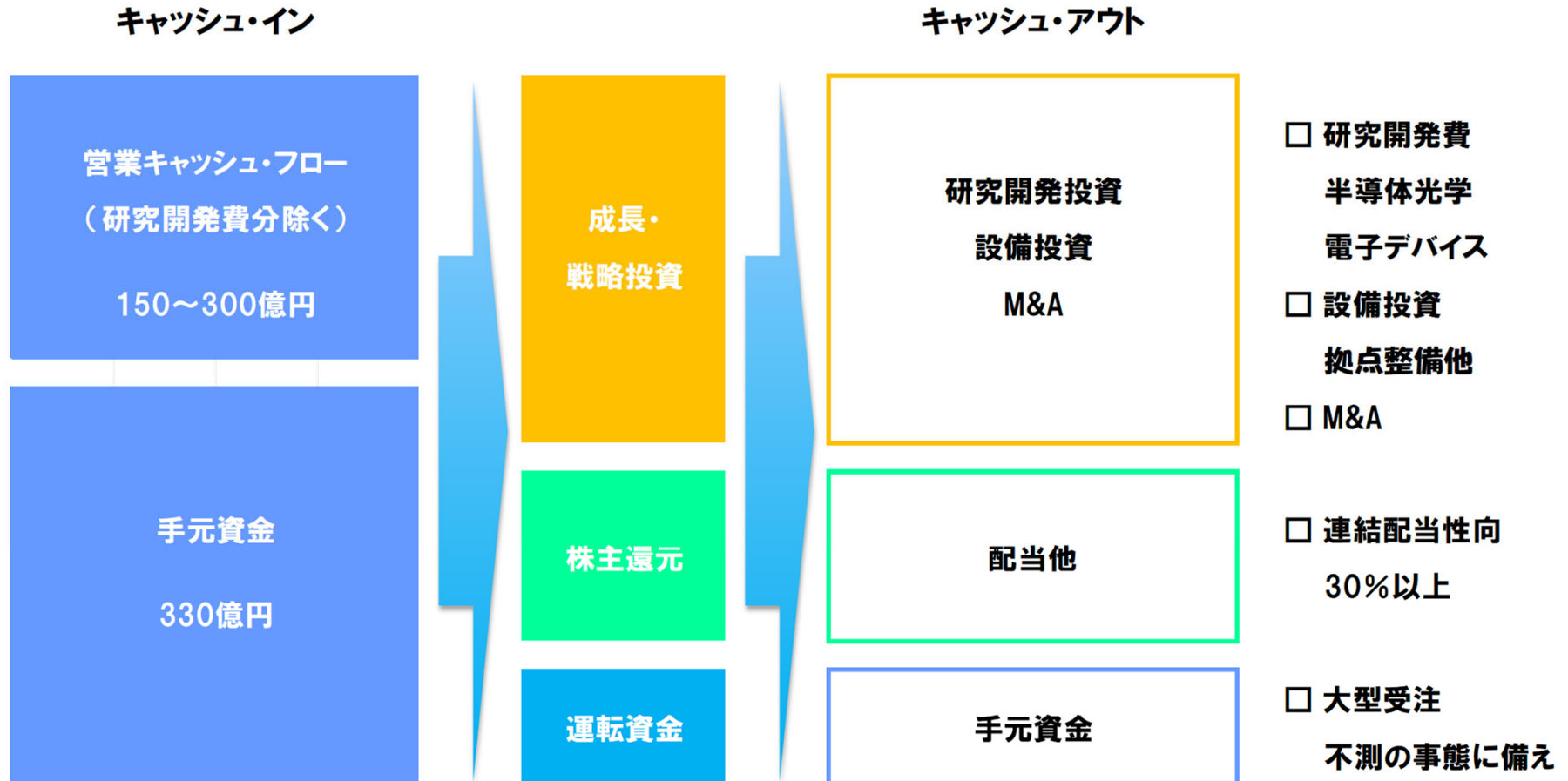
□ 中期経営計画と次期事業戦略

経営目標として、営業利益率20%超、ROE(自己資本利益率)10%超を想定。株主価値の向上に向けて、連結配当性向30%以上を前提とする安定配当と機動的・戦略的な自己株式取得を検討しています。24/12期の年間1株当たり配当金は52円(中間配当金26円)を計画。次期事業戦略において、事業領域展開に示すとおり、光学に加えて半導体光学融合や電子デバイスを事業成長の柱にする方針です。

図表6:領域別中期経営目標(単位:十億円)



図表7:キャッシュ・アロケーション



図表8: 設備投資・減価償却費・研究開発費

日本本社 鶴ヶ島



半導体技術 上海



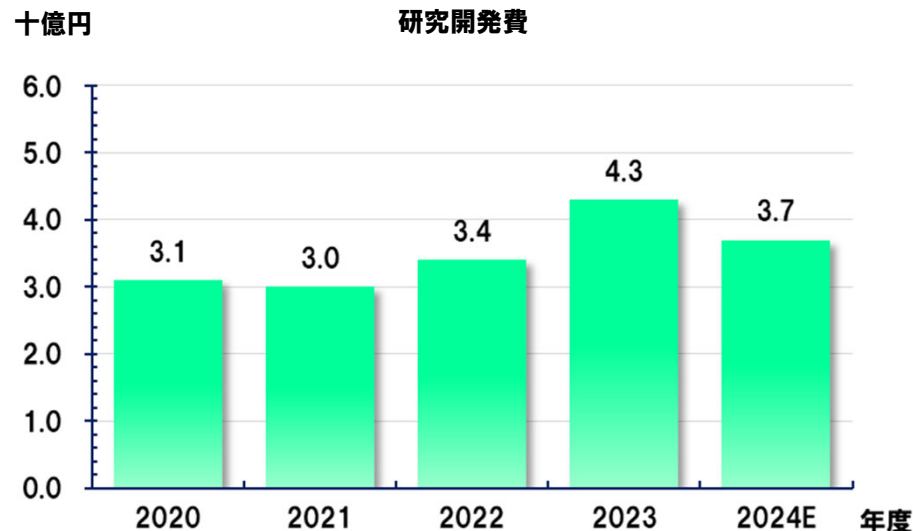
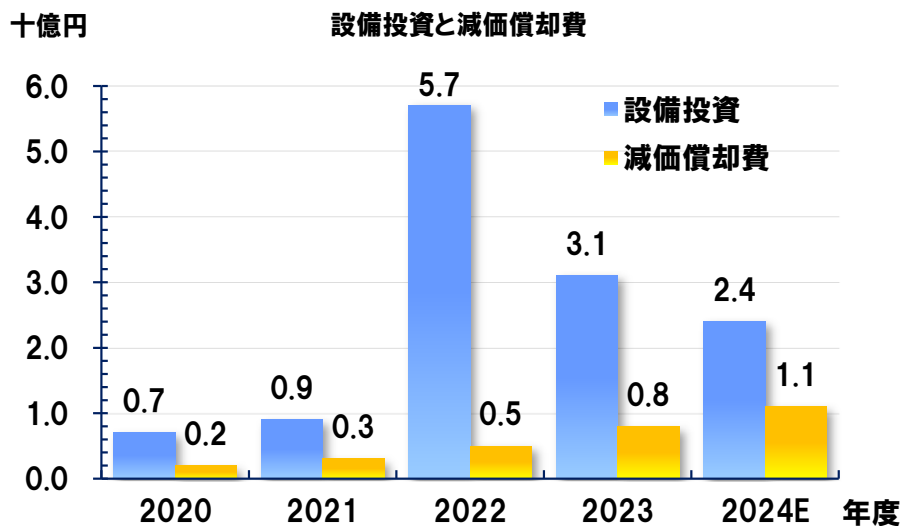
ベトナム ハノイ近郊



- 半導体光学・電子デバイス等
- 先端分野研究開発拠点 準備中

- ALD装置等の新技術装置の生産・研究開発拠点、2024年1月稼働開始

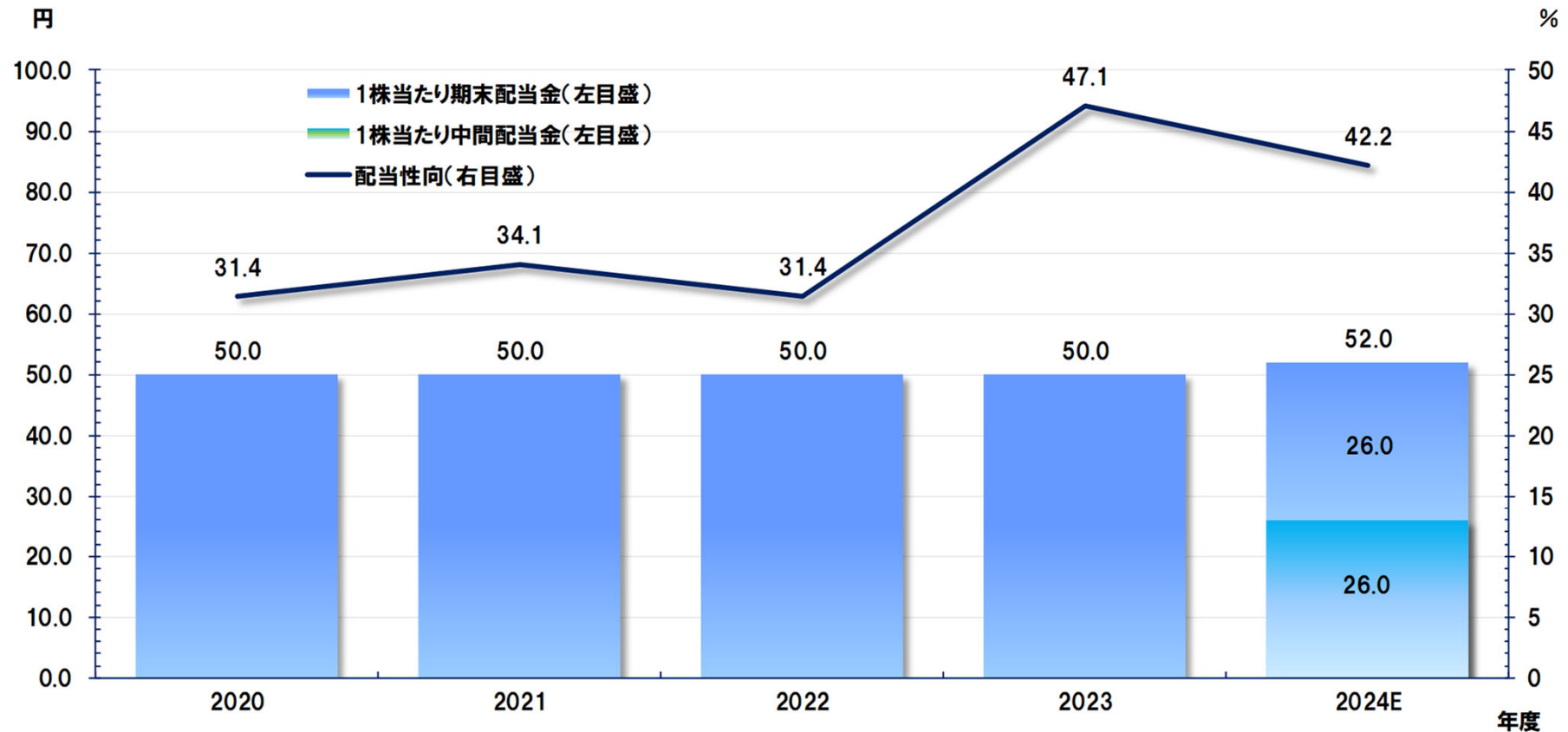
- 装置設計・東南アジアの顧客への装置据付・保守修理、部品加工販売
2023年12月稼働開始



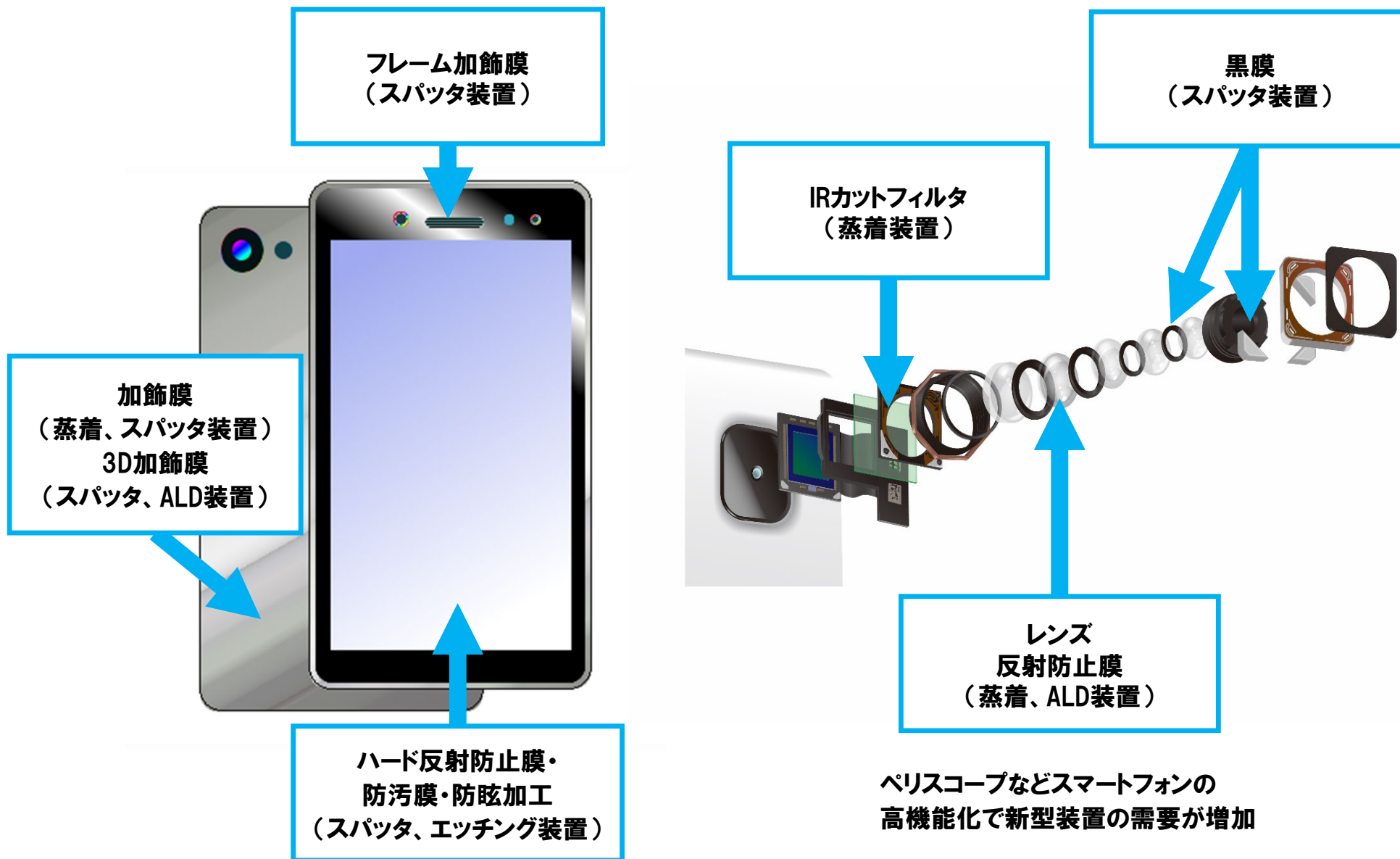
□ 株主還元策・配当予想

研究開発投資、生産体制強化、新事業開拓等の必要な内部留保資金を確保しつつ、連結配当性向30%以上を前提として株主還元を実施します。株主価値向上を目的として、2024年12月期より中間、期末の年2回配当を実施する想定であり、24年12月期通期配当は52円を予定しています。収益状況が大きく変動する際は、配当金を見直す可能性があります。

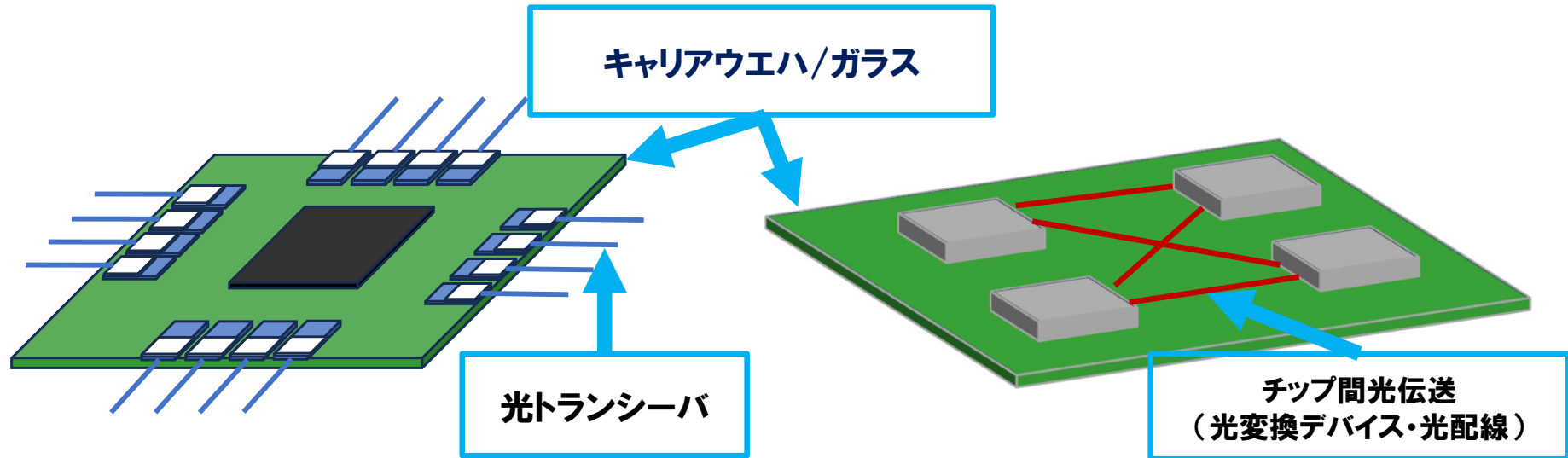
図表9：1株当たり配当金と年間配当性向



図表10: AIスマートフォン向け光学薄膜装置



図表11: 光電融合デバイス向け半導体光学融合装置

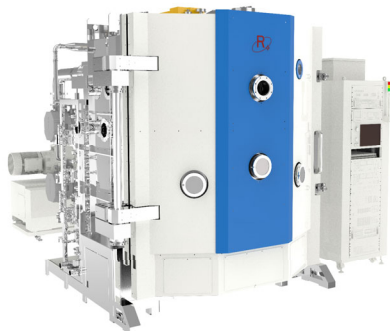


光電融合技術により、チップ間光伝送デバイスの実現に貢献へ

第2世代 光通信

第3世代 光通信

第3.5世代 光通信



蒸着装置



スパッタ装置

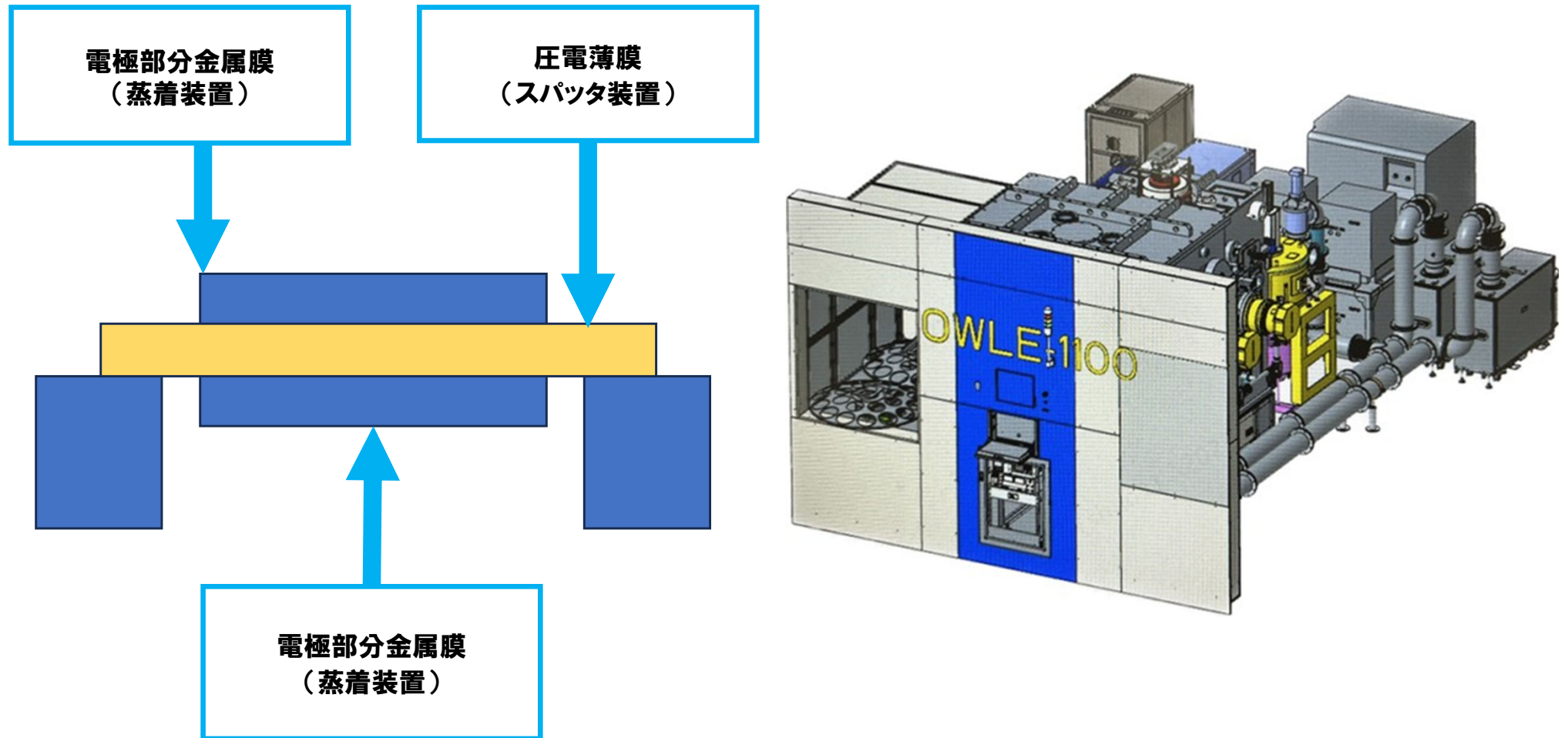


ALD装置

図表12:空間コンピュータ向け半導体光学融合装置



図表13:BAWフィルタ(バルク表面波フィルタ)向け電子デバイス装置



注:BAWフィルタとは、Bulk Acoustic Wave Filter の略称で、2GHz以上を使う移動体通信システムで必要不可欠であり、SAW(Surface Acoustic Wave:弾性表面波)フィルタは800Mhz~2GHzで使用される

